

ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 263



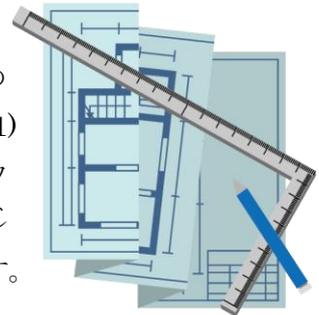
*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
【書名の後の () の数字は (請求記号 保管場所 資料番号) です。】

問)

朝日新聞でウクライナのハリコフ劇場の設計に日本人の川喜田という人が関わっているという記事を見た。何か関連資料はないか。

答)

この記事は朝日新聞 2022年10月15日朝刊の読者投稿欄に、過去の投稿の紹介として載っていたもので、元々の掲載日は昭和6年(1931)です。ハリコフは当時の呼び方で、現在の一般的な呼び方でハルキウという都市のことです。都市に限りませんが、今と昭和時代では同じ物でも呼び方が違うことがありますので、検索時には注意が必要です。試しにどっちも検索してみると…



なんでも検索 > ハルキウ > 該当する資料がありません。

なんでも検索 > ハリコフ > 29件ヒット

やはり当時の呼び方でないとヒットしませんでした。ハリコフは最近呼び方が変わった例ですが、この「いつ変わったか」ということは調べ物の際には意識した方が良いでしょう。

では質問に戻って、改めて検索してみますと…

なんでも検索 > 川喜田 ハリコフ > 1件ヒット

⇒『新建築 復刻版 第13巻』(527/Sh64/8-1 地下書庫和雑誌 160002630)

目次を見ると、「ハリコフ国立劇場應募案」が載っているようです。また、目次情報からフルネームが「川喜田煉七郎」とわかりましたのでこちらでも検索してみましよう。

なんでも検索 > 川喜田煉七郎 > 図書1冊 雑誌45冊

著書と雑誌記事がヒットしました。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさん資料があります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



冬のお”手”入れあれこれ



冬は乾燥で手荒れが気になる季節ですね。最近では感染症対策で手洗いする機会も多く、いつもより手荒れがひどくなってしまった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。現代では薬局に多くの手荒れ対策の商品が並んでいますが、昭和の時代はどのように対処していたのでしょうか。当時の雑誌からご紹介します。

あかぎれは、手足の指の頭が割れて、その割れ目の両方に高い土堤ができて固くなるので、～中略～ その固くなった土堤には、血管も神経もないのだから、古いカミソリの齒で、その土堤を薄く何回も削り取ります。そしてご飯つぶをねりつぶして、糊を作って布にのばして貼っておくときれいに治ります。

『主婦之友 第29巻第11号(昭和20年12月)』(閉架雑誌 051/Sh99/29-11 100017203)

器に水を用意して、蜜柑の皮を入れ、(水一升に対して皮五個の割合)一度火にかけて沸騰させてから、手の入るくらいに冷めた頃、しもやけのできた手足を十分-二十分の間浸すだけですが、非常に気持ちよいもので、痛み、痒みなどすっかりと消えてしまいます。

『主婦之友 第32巻第12号(昭和23年12月)』(閉架雑誌 051/Sh99/32-12 100017934)

婦人雑誌だけでなく、当時の少年少女向けの雑誌にも手荒れ対策の記事があります。子どもから大人まで、手荒れに悩んでいる人が多かったようです。

しもやけのできそうな方は、冬になったら入浴の度に糠袋で手足を洗い、上がり際に体をふいてから、糠袋をかたく絞って中の糠をしもやけになり易い所にのせ、糠が乾いてぼろぼろになる迄すり合わせるようにすれば、予防することができます。

『少女倶楽部 第16巻第10号 附録(昭和13年8月)』(閉架雑誌 051/Sh96/Z16-10 160003925)

毎朝、しもやけのできる場所を、あたたかくなるくらい、ごしごし手でこすりましょう。こうすると、ねている間、にぶっていた皮膚の毛細血管のはたらきがかっぱつになり、血のめぐりがよくなって、しもやけをふせぎます。朝ばかりでなく、いつでも実行すればなおよい。

『少年 第4巻第1号(昭和24年1月)』(閉架雑誌 051/Sh96/4-1 100026849)

手軽に治療薬を手に入れる現代ではあまり考えづらい方法もありますが、身近にあるものを使って対処していた昭和の暮らしの一端が垣間見えます。

※旧仮名遣いを新仮名遣いに改め、旧漢字を新漢字に改めました。

ぶらりらいぶらりい～図書室にはこんな本があります～ NO. 263

2023年1月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

※昭和館図書室は蔵書点検のため、令和5年3月1日(水)～14日(火)まで休室します。